

最上紅花のドキュメンタリー映画

紅花の守人

べにばなのもりびと

悠久の旅を重ね

この地に辿り着いた紅の花

なぜ守られて来たのだろう

だが、これから伝えてゆくのだろう

わたしたちは、この花のことを何も知らない

だからこの映画は生まれた

完成披露上映

2021年10月10日(日) 14:00 ~
やまぎん県民ホール

県内先行上映

2021年10月15日(金)~28日(木)
フォーラム山形

お待たせしました
上映決定!



紅花の あやしき紅に魅せられた 現代のく紅花の守人たち> による奇跡の物語

室町時代末期に中近東からシルクロードを経て伝わった紅花は、
悠久の旅の末、いまこの山形の地に息づいています。
手軽で安価な化学染料に取って代わられた紅花は、なぜ未だに愛され続けているのか。
栽培から染めに至るまで4年の歳月をかけて臨んだ、
世界初！紅花を巡る長編ドキュメンタリー映画が遂に完成しました。



作品解説

紅 花。私たちはその花のことを何も知らない。そんな思いがこの映画を作る旅の始まりでした。

7月初旬、青々とした畑に一点の黄色が灯る。半夏(はんげ)一つ咲き、それは間もなく一斉に咲き始める自然からのサイン。風景を一変させて咲き誇る紅花畑に人々が集い、一番摘みの花を口に含んで体を温め、棘の痛みに耐えながら花摘みに精を出す。遙か中近東を原産地とする花がこの山形に根付いた巡り合わせの不思議さがその光景に重なります。

江戸中期、紅染の原料として北前船で京阪地域に運ばれこの出羽の地に巨万の富と文化交易をもたらした奇跡の花は、手間をかけ天然を生かすより利便性を優先する価

値観の中でその存在感を薄くし、第二次世界大戦時には食料増産を理由に栽培が禁じられるに至ります。歴史の中で盛衰を味わいながらも守られ復活を遂げた最上紅花。

紅の精を集めて染め上げられた赤は忘れがたい印象を与えつつ、一期一会のほかなさを予感させる色。紅花が何故こうも私たちを惹きつけるのか。問いかける気持ちは尽きることがありません。

紅花は私たちになにをもたらしたのか。そして今後どう活かしていけばよいのか。この旅の中で多くの人たちとの出会いに恵まれました。栽培を継承する人、染めに向合う人、文化・歴史を掘り起こす人。彼ら、ひたむきな「紅花の守人」の姿の中に、答えが少しずつ見えてきたように思います。

佐藤広一監督プロフィール

1977年、山形県出身。監督作に「隠し砦の鉄平君」(06年)、WEBドラマ「まちのひかり チェーズーベ」(20年)主演：庄司芽生(東京女子流)がある。

ドキュメンタリー映画「無音の叫び声」(16年/原村政樹監督)、「おだやかな革命」(17年/渡辺智史監督)、「YUKIGUNI」(18年/同)では撮影を担当。

監督作である「世界一と言われた映画館」(ナレーション：大杉漣/プロデューサー：高橋卓也)が2019年に全国公開された。



企画・製作/映画「紅花の守人」製作委員会
プロデューサー/高橋卓也 監督/佐藤広一
2021 / 日本 / 90分(予定) / カラー / DCP / 16:9

完成披露上映会(1回限り)

2021年10月10日(日) 14:00 上映と舞台挨拶 会場：やまぎん県民ホール 大ホール (山形市双葉町1-2-38)

鑑賞券：一般 1,100円 小中高生 800円 (500枚限定・予約制) ※未就学児入場不可 ※10/15からのフォーラム山形での上映にはご使用になれません

*鑑賞券は下記①～③のいずれかでお求めください

①やまぎん県民ホールチケットデスク ☎023-664-2204 (10:00～19:00火曜休) ②窓口：ホール1階事務室 ③インターネット：<https://yamagata-bunka.jp>

主催：映画「紅花の守人」製作委員会/共催：山形県総合文化芸術館指定管理者 みんぐるやまがた/後援：山形県、山形市、認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭

県内劇場先行上映(2週間)

2021年10月15日(金)～28日(木) 舞台挨拶(土日のみ) 会場：フォーラム山形 (山形市香澄町2-8-1)

前売券：一般 1,100円 小中高生 800円 (当日のみ) ※10/10のやまぎん県民ホールでの上映にはご使用になれません

主催：映画「紅花の守人」製作委員会、フォーラム山形 *上映時間は映画館にお問い合わせください。☎023-632-3220 <https://www.forum-movie.net/yamagata/>